

# 言語学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター
言語学特論Ⅱ	音韻論概説Ⅰ	2	那須川 訓也	前期 火曜2限
記述言語学特論Ⅰ	フィールド言語学の実践と理論	2	内藤 真帆	前期 水曜4限
理論言語学特論Ⅰ	統語論入門	2	小泉 政利	前期 火曜3限
実験言語学特論Ⅰ	コーパスを活用した定量的分析入門	2	小磯 花絵、鈴木 あすみ	前期 月曜3限
言語学総合演習Ⅰ	言語学研究法Ⅰ	2	小泉 政利、木山 幸子、内藤 真帆	前期 金曜4限
言語学総合演習Ⅱ	言語学研究法Ⅱ	2	小泉 政利、内藤 真帆	後期 金曜4限
言語学研究演習Ⅱ	音韻論概説Ⅱ	2	那須川 訓也	後期 火曜2限
記述言語学研究演習Ⅰ	未知の言語の調査と分析	2	内藤 真帆	後期 水曜4限
理論言語学研究演習Ⅰ	語順選好の認知脳科学	2	小泉 政利	後期 木曜1限

**科目名：言語学特論Ⅱ**

曜日・講時：火曜 2 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：那須川 訓也

コード：LM12206, 科目ナンバリング：LIH-LIN602J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：音韻論概説Ⅰ**

**2・授業の目的と概要：**この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

**3. 学習の到達目標：**この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音体系, (ii) 音現象を制御する規則, (iii) 文法理論における音韻知識の位置づけを説明できるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業計画は以下の通りである。毎回の進度は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論とは何か。

第2回：音韻論と音声学

第3回：規則体系としての言語

第4回：言語機能

第5回：中核文法と周辺体系

第6回：音素論

第7回：音素と異音

第8回：対立分布と相補分布

第9回：異音規則

第10回：音配列論

第11回：音韻範疇

第12回：母音素性

第13回：母音弱化

第14回：子音素性

第15回：子音軟音化

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

**5. 成績評価方法：**レポート課題×1 [20%], 確認テスト×1 [70%], 授業への積極的な参加 [10%]

授業の5分の1を超えて欠席した場合は、単位の修得資格を失う可能性があります。また、公認欠席、就職試験に伴う欠席などのやむを得ない欠席以外の場合は、減点の対象となります。

**6. 教科書および参考書：**必要な適宜資料を配布する。

**7. 授業時間外学習：**毎回、授業で扱った教科書の個所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：記述言語学特論 I**

**曜日・講時：**水曜 4 限

**開講学期：**前期 **単位数：**2

**担当教員：**内藤 真帆

**コード：**LM13407, **科目ナンバリング：**LIH-LIN606J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**フィールド言語学の実践と理論

**2・授業の目的と概要：**フィールド言語調査で得られた一次データを、特定の理論的な枠組みは使わずに、できる限り理論的に中立的な言語類型という視点から分析する方法を学びます。この分析を通して、様々な言語の音韻、形態・統語および意味の現象をとらえ、考察する能力を高めます。授業では基本的な短い文献の講読・発表と実際のデータの分析演習を中心に進めます。

**3. 学習の到達目標：**・世界の言語の類型論的特徴を理解し記述できるようになる。  
・言語学的用語を正確に理解し使えるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1 イントロダクション
- 2 品詞
- 3 所有表現
- 4 語順 1
- 5 語順 2
- 6 文法関係
- 7 構文 1
- 8 構文 2
- 9 格 1
- 10 格 2
- 11 学問分野としての類型論、形態統語類型論のまとめ
- 12 意味類型論 1
- 13 意味類型論 2
- 14 音韻類型論
- 15 復習

**5. 成績評価方法：**定期試験 (70%)、発表 (30%)

**6. 教科書および参考書：**適宜、資料を配布します。

**7. 授業時間外学習：**授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：理論言語学特論 I**

曜日・講時：火曜 3 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LM12307, 科目ナンバリング：LIH-LIN607J, 使用言語：日本語及び英語

**1. 授業題目：統語論入門**

**2・授業の目的と概要：**この授業では、生成文法と呼ばれる統語理論の基本的な考え方と理論的諸概念を紹介し、日英語を中心とした統語現象の分析方法について理解を深める。

**3. 学習の到達目標：**生成文法の基盤原理について説明でき、基本的な統語現象について分析できる能力を身につける。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンス。生成文法の考え方
2. 範疇、構成素、依存性、文法関係
3. 句構造
4. 選択特性：範疇選択、意味選択、 $\theta$  役割
5. X バー理論
6. 疑問文
7. 受動態と格理論
8. 中間確認小テストと解説
9. 関係節
10. 不定節と 例外的格付与
11. 不定節と制御理論
12. 上昇構文と非対格動詞
13. 指示関係と束縛理論
14. 空範疇
15. 期末確認小テストと解説

**5. 成績評価方法：**課題：30%、小テスト 35%×2回

**6. 教科書および参考書：**Carnie, Andrew (2021) *Syntax: A Generative Introduction*, 4th edition. Wiley-Blackwell.

**7. 授業時間外学習：**予習・復習に各2時間程度必要と予想されます。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：実験言語学特論 I**

曜日・講時：月曜 3 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：小磯 花絵、鈴木 あすみ

コード：LM11307, 科目ナンバリング：LIH-LIN608J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：コーパスを活用した定量的分析入門

2・授業の目的と概要：テキストの集積体であるコーパスは、言語学およびその関連領域の研究に様々な形で活用されている。本授業では、コーパスを活用した定量的分析の基礎的技術を学ぶ。そのために、オンライン検索システム「中納言」を用い、コーパスの検索方法と分析法を実践的に習得する。

3. 学習の到達目標：日本語の代表的なコーパスを対象に、基本的な検索とデータ集計の方法を身につける。学位論文研究に応用可能な、コーパス言語学の基礎知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. コーパスの概要 (教員)
2. 検索システム「中納言」の使い方の基本 (教員)
3. 『日本語日常会話コーパス』の使い方 (1) (教員)
4. 『日本語日常会話コーパス』の使い方 (2) (教員)
5. 『日本語日常会話コーパス』の使い方 (3) (教員)
6. 『日本語日常会話コーパス』の使い方 (4) (教員)
7. 『日本語日常会話コーパス』の使い方 (5) (教員)
8. その他の主要なコーパスの使い方 (教員)
9. コーパス研究課題設定 (受講生)
10. コーパス研究課題分析 (1) (受講生)
11. コーパス研究課題分析 (2) (受講生)
12. コーパス研究課題分析 (3) (受講生)
13. コーパス研究課題分析 (4) (受講生)
14. 研究成果プレゼンテーション (1) (受講生)
15. 研究成果プレゼンテーション (2) (受講生)

5. 成績評価方法：期末レポート 50%、発表 30%、毎回授業の最後に課すワークシート 20% によって評価する

6. 教科書および参考書：必要な適宜資料を配布する。

7. 授業時間外学習：各自が設定した課題に基づき、コーパスの検索および分析を行う。また、その結果を整理し、発表資料およびレポートとしてまとめる。授業時間内で終わらない場合には授業時間外に対応する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

**科目名：言語学総合演習 I**

**曜日・講時：**金曜 4 限

**開講学期：**前期 **単位数：**2

**担当教員：**小泉 政利、木山 幸子、内藤 真帆

**コード：**LM15407, **科目ナンバリング：**LIH-LIN606J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**言語学研究法 I

**2・授業の目的と概要：**授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

1. 発表者は、論文発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、方法、結果と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。

2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、また、プレゼンテーション方法を再考し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にするよう努める。

3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究領域以

**3. 学習の到達目標：**学会発表・論文作成の方法を身につける。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンス
2. 論文1の口頭発表、質疑応答
3. 論文2の口頭発表、質疑応答
4. 論文3の口頭発表、質疑応答
5. 論文4の口頭発表、質疑応答
6. 論文5の口頭発表、質疑応答
7. 論文6の口頭発表、質疑応答
8. 論文7の口頭発表、質疑応答
9. 論文8の口頭発表、質疑応答
10. 論文9の口頭発表、質疑応答
11. 論文10の口頭発表、質疑応答
12. 論文11の口頭発表、質疑応答
13. 論文12の口頭発表、質疑応答
14. 論文13の口頭発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

**5. 成績評価方法：**質疑への参加 60%、発表 40%

**6. 教科書および参考書：**教科書は使用しない。

**7. 授業時間外学習：**発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。ここでの発表を学会発表や論文投稿につなげることが望ましい。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：言語学総合演習Ⅱ**

**曜日・講時：**金曜 4 限

**開講学期：**後期 **単位数：**2

**担当教員：**小泉 政利、内藤 真帆

**コード：**LM25409, **科目ナンバリング：**LIH-LIN607J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**言語学研究法 II

**2・授業の目的と概要：**授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

1. 発表者は、発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、分析と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。
2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、また、プレゼンテーション方法を再考し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にするよう努める。
3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究領域以外の分野へ

**3. 学習の到達目標：**学会発表・論文作成の方法を身につける。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンス
2. 論文1の口頭発表、質疑応答
3. 論文2の口頭発表、質疑応答
4. 論文3の口頭発表、質疑応答
5. 論文4の口頭発表、質疑応答
6. 論文5の口頭発表、質疑応答
7. 論文6の口頭発表、質疑応答
8. 論文7の口頭発表、質疑応答
9. 論文8の口頭発表、質疑応答
10. 論文9の口頭発表、質疑応答
11. 論文10の口頭発表、質疑応答
12. 論文11の口頭発表、質疑応答
13. 論文12の口頭発表、質疑応答
14. 論文13の口頭発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

**5. 成績評価方法：**質疑への参加 50%、発表 50%

**6. 教科書および参考書：**教科書は使用しない。

**7. 授業時間外学習：**発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。ここでの発表を学会発表や論文投稿につなげることが望ましい。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：言語学研究演習Ⅱ**

曜日・講時：火曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：那須川 訓也

コード：LM22208, 科目ナンバリング：LIH-LIN609J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：音韻論概説Ⅱ**

**2・授業の目的と概要：**この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

**3. 学習の到達目標：**この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音節構造, (ii) 音現象を制御する規則, (iii) 文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業計画は以下の通りである。毎回の進度は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論と音声学

第2回：英語の音配列論

第3回：きこえ度と音節

第4回：英語の音節構造

第5回：オンセット

第6回：ライムと核

第7回：コーダ

第8回：日本語の音配列論

第9回：日本語の音節構造とモーラ

第10回：音節類型論

第11回：強勢規則

第12回：最適性理論 (OT)

第13回：接辞化と音韻規則

第14回：複合語形成と音韻規則

第15回：借用語と音韻規則

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

**5. 成績評価方法：**レポート課題×1 [20%], 確認テスト×1 [70%], 授業への積極的な参加 [10%]

授業の5分の1を超えて欠席した場合は、単位の修得資格を失う可能性があります。また、公認欠席、就職試験に伴う欠席などのやむを得ない欠席以外の場合は、減点の対象となります。

**6. 教科書および参考書：**必要な適宜資料を配布する。

**7. 授業時間外学習：**毎回、授業で扱った教科書の個所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：記述言語学研究演習 I**

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LM23410, 科目ナンバリング：LIH-LIN611J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：未知の言語の調査と分析**

**2・授業の目的と概要：**未調査・未解明で文字を持たない消滅寸前の少数言語、このような世界の言語を対象に、音声から音韻、形態、文の構造まで網羅的に調査・分析する方法を実践的に身につけます。さらに解明したことを言語学上の記号と術語を用いて、専門的かつ体系的に記述する方法を学びます。

理論を用いても説明困難な言語現象をどのように分析・考察しうるか実際のデータを基に検討するほか、記述文法・辞書の作成に至るプロセスを体験し、消滅危機言語のアーカイブ化についても議論します。当講義では、話者 4 人の言語と話者 500 人の言語の一次データを扱います

**3. 学習の到達目標：**・未知の言語の調査・分析方法を理解する。

・導いた規則性や分析結果を、言語学の術語を用いて記述できるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 世界の言語状況、未知の言語・調査地の探し方
2. 未知の言語へのアプローチ方法、調査媒介言語
3. 調査言語・調査地の決定前に行う準備と許可申請
4. 調査・分析・記述 1：音声の聞き取りと国際音声記号を用いた書き取り
5. 調査・分析・記述 2：音素の設定と弁別的特徴
6. 調査・分析・記述 3：形態音韻論的現象
7. 調査・分析・記述 4：語形成のプロセスと音韻規則
8. 調査・分析・記述 5：品詞分類と定義、文法範疇
9. 調査・分析・記述 6：句・文の構造、文の必須要素
10. 調査・分析・記述 7：結合価、移動、情報構造
11. 調査・分析・記述 8：意味役割、意味体系、発話と意味
12. 調査・分析・記述 9：共時的分析と通時的分析、言語変化
13. 調査・分析・記述 10：説明困難な言語現象の分析と考察
14. 調査方法と得られるデータの違い、データの記録方法
15. 消滅危機言語の記述、保存と継承、アーカイブ化

**5. 成績評価方法：**定期試験（70%）、発表（30%）

**6. 教科書および参考書：**適宜、資料を配布します。

**7. 授業時間外学習：**授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：理論言語学研究演習 I**

曜日・講時：木曜 1 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LM24103, 科目ナンバリング：LIH-LIN612J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：語順選好の認知脳科学**

**2・授業の目的と概要：**サピアとウォーフの言語相対性仮説は、言語と思考の関係をめぐる議論を促してきました。本講義では、この問題を「語順」の観点から検討します。主語が目的語に先行する S0 語順は、OS 語順より処理しやすいとされますが、従来研究は S0 言語に偏っていました。そこで S0 言語と OS 言語を比較し、語順選好が言語固有の文法によるのか、人間に普遍的な認知特性によるのかを明らかにします。

**3. 学習の到達目標：**(1) 言語理解と言語産出の脳内処理メカニズムの概要を自分の言葉で説明できるようになる。  
(2) 言語の語順と思考の順序の関係を自分の言葉で説明できるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1 ガイダンス
- 2 語順選好とは
- 3 基本語順における語順選好
- 4 基本語順における語順選好を生み出す要因
- 5 言語理解における語順選好
- 6 言語理解における語順選好を生み出す要因
- 7 言語産出における語順選好
- 8 言語産出における語順選好を生み出す要因
- 9 言語理解と言語産出の脳内処理過程と語順選好
- 10 言語理解と言語産出
- 11 言語理解における文脈の影響 1
- 12 言語理解における文脈の影響 2
- 13 言語産出における文脈の影響 1
- 14 言語産出における文脈の影響 2
- 15 試験と解説

**5. 成績評価方法：**概ね次のような基準で総合的に評価を決定します。

課題提出（予習、ミニットペーパー）(50%)

試験 (50%)

**6. 教科書および参考書：**ひとが言葉を理解・産出する仕組み：心理言語学入門

**7. 授業時間外学習：**毎回、教科書の指定範囲を読んで予習して来てください。授業後は、その日のうちに復習して、理解を確実なものにするようにしましょう。1 週間に 3 時間程度の準備学修（予習・復習等）が必要となります。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

**9. その他：**